

【事例研究】

和歌山市における喫煙防止教育
“児童の事前アンケート 20年の歩み”

西畑昌治¹⁾ 池上達義²⁾ 岩橋和裕³⁾ 岩橋秀記³⁾ 井辺美香¹⁾ 上田晃子⁴⁾
金尾好章³⁾ 菌部真里¹⁾ 田畑宏¹⁾ 玉置敬一³⁾ 原隆亮⁵⁾ 本田健太郎⁶⁾ 湯川直彦³⁾ 佐本明⁷⁾

初めに

歌山県はタバコ対策先進県と言える。タバコ問題を考える会・和歌山は1987(昭和62)年頃から活動を始めていた。著者らは同会の開催する講演会を毎年聴講していた。2001(H13)年和歌山県タバコ対策指針策定、2002(H14)年全国で初めて公立学校敷地内禁煙を断行した。これらの和歌山県のタバコ対策に進展に押されるように2003(H15)年8月、和歌山禁煙教育ボランティアの会を結成した。以来、20年間に亘り、現在活動中の会員17名(医師、歯科医師、薬剤師、喉頭摘出者等)で、和歌山市内の全小学校52校~53校において、喫煙防止の出前授業を行い、タバコに関する事前アンケート調査を実施してきた。

【お断り】

本報告は、pdfファイルでの投稿となりましたので、本ページには表題と「初めに」の一部を掲載し、西畑先生による編集(原稿)のまま、次ページ以降に掲載しています。あらかじめご了承ください。(禁煙科学 編集委員会)

- 1) 和歌山市医師会
- 2) 日本赤十字社和歌山医療センター
- 3) 和歌山市歯科医師会
- 4) 那賀郡医師会
- 5) 海南市薬剤師会
- 6) 和歌山市薬剤師会
- 7) 元和歌山県職員

責任者連絡先：西畑昌治
(〒641-0012) 和歌山県和歌山市紀三井寺787-5
Tel: 073-447-3117
E-mail: kawarano@pop02.0dn.ne.jp

論文初回提出日：2024年3月25日

和歌山市における喫煙防止教育
"児童の事前アンケート 20年の歩み"

西畑昌治 1)、池上達義 2)、岩橋和裕 3)、岩橋秀記 3)、井辺美香 1)、上田晃子 4)、
金尾好章 3)、藺部真里 1)、田畑宏 1)、玉置敬一 3)、原隆亮 5)、本田健太郎 6)、湯川直
彦 3)、佐本明 7)

1)和歌山市医師会、2)日本赤十字社和歌山医療センター、3)和歌山市歯科医師会、
4)那賀郡医師会、5)海南市薬剤師会、6)和歌山市薬剤師会、7)元和歌山県職員

初めに

和歌山県はタバコ対策先進県と言える。タバコ問題を考える会・和歌山は1987(昭和62)年頃から活動を始めていた。著者らは同会の開催する講演会を毎年聴講していた。2001(H13)年和歌山県タバコ対策指針策定、2002(H14)年全国で初めて公立学校敷地内禁煙を断行した。これらの和歌山県のタバコ対策に進展に押されるように2003(H15)年8月、和歌山禁煙教育ボランティアの会を結成した。以来、20年間に亘り、現在活動中の会員17名(医師、歯科医師、薬剤師、喉頭摘出者等)で、和歌山市内の全小学校52校~53校において、喫煙防止の出前授業を行い、タバコに関する事前アンケート調査を実施してきた。

アンケート調査の目的を以下のように設定した。

- 1 子どもたちの喫煙に対する認識を把握する。(1)健康影響(2)依存性(3)喫煙のきっかけ(4)将来の喫煙(5)家族の喫煙と子どもの喫煙に対する意識
- 2 受動喫煙の状況を把握する(1)家族の喫煙状況(2)受動喫煙と子どもの喫煙に対する意識
- 3 子どもたちの喫煙経験を把握する

v.20

タバコについてのアンケート(小学生用)

このアンケートは、『どうすれば、子どもたちがタバコを吸わないか』について、皆さんの意見を聞くためにおこないます。
誰が書いたのか、わからないようにしていますので、全部の質問に思っていることをそのまま書いてください。

書くときの注意

それぞれの質問に、あてはまる番号にひとつだけ○をつけてください。
あてはまる番号がなく、「その他」と書いてあれば、そこに自分の考えを書いてください。
質問の後に(いくつでも)と書いてあれば、あてはまるもの全部に○をつけてください。
漢字や意味がわからなければ、先生に聞いてください。

まず、あなたの学年と性別を教えてください。

学年	① 小学4年生	② 小学5年生	③ 小学6年生	性別	① 男	② 女
----	---------	---------	---------	----	-----	-----

【質問1】 タバコは、どれくらい体に悪いと思いますか。
① とても悪いと思う ② ちょっとだけ悪いと思う
③ 悪いとは思わない ④ わからない

【質問2】 タバコを吸い続けると、やめられなくなることを知っていますか。
① よく知っている ② 少し知っている ③ 知らなかった

【質問3】 子どもがタバコを吸う一番大きな理由は何だと思いますか。(ひとつだけ)
① 好奇心から ② 大人になった気分がするから ③ 親などへの反抗心から
④ 好きなタレントが吸っているから ⑤ 友だちが吸っているから
⑥ 友だちがすすめるから ⑦ 親が吸っているから ⑧ 親がすすめるから
⑨ 兄弟姉妹の影響 ⑩カッコいいと思うから(カッコつけたいから)
⑪ なんとなく ⑫ その他()

【質問4】 あなたは、これからもタバコを吸わないと思いますか。
① ぜったいに吸わない ② たぶん吸わない ③ 吸うかもしれない
④ わからない

【質問5】 家で、タバコを吸っている人はいますか。(いくつでも)
① 誰も吸っていない ② 父 ③ 母 ④ 兄 ⑤ 姉 ⑥ 弟 ⑦ 妹
⑧ おじいさん ⑨ おばあさん ⑩ その他の人

v.20

【質問6】 家の人のタバコの煙を吸ってしまうことがありますか。
① いつもあるので、なんとかしてほしい ② いつもあるけど、べつに気にならない
③ たまにあるので、なんとかしてほしい ④ たまにあるけど、べつに気にならない
⑤ ありません

【質問7】 家の人からタバコをすすめられたことがありますか。(いくつでも)
① すすめられたことはない ② 父にすすめられた ③ 母にすすめられた
④ おじいさんにすすめられた ⑤ おばあさんにすすめられた
⑥ 兄弟姉妹にすすめられた ⑦ その他

【質問8】 あなたは、タバコを吸ったことがありますか。
① 吸ったことはない → 【質問12】へ
② ちょっとだけ吸ってみたいことはあるが、続けて吸わなかった
③ 前に続けて吸っていたが、やめた(1日 本ぐらい、1ヶ月に 日ぐらい)
④ 今、タバコを吸っている(1日 本ぐらい、1ヶ月に 日ぐらい)

【質問9】 タバコを吸ったことがある人は、初めて吸ったのはいつごろですか。
① 小学校入学前 ② 小学1年 ③ 小学2年 ④ 小学3年
⑤ 小学4年 ⑥ 小学5年 ⑦ 小学6年

【質問10】 タバコを吸ったことがある人は、最初に吸ったタバコはどこにありましたか。
① 自分の家や車にあった ② 自分の家や車の炭皿の吸いから ③ 友だちからもらった
④ 親からもらった ⑤ 大人の人からもらった ⑥ 自販機で買った
⑦ 店で買った ⑧ ひろったタバコ ⑨ ひろった吸いから ⑩ その他

【質問11】 タバコを吸っている人は、タバコをやめたいですか。
① やめたい ② やめたくない ③ わからない

【質問12】 タバコについて、意見や質問があれば、書いてください。

☆☆☆ ご協力ありがとうございました。☆☆☆
病気になるないように、これからもタバコにだまされしないでください。
アンケート実施：和歌山禁煙教育ボランティアの会

授業前、アンケートを実施していただき、集計は当会メンバーや養護教員、教職員が入力した。

今回、これまでに集積したアンケートを解析することで、若干の知見を得ることができたので報告する。

キーワード 和歌山市内小学校 喫煙防止教育 事前アンケート 受動喫煙

対象と方法

対象は和歌山市内で禁煙教育を実施した小学校4年~6年とした。禁煙教育を実施する前、教職員に事前アンケートを依頼した。喫煙防止授業前アンケート収集数は、年度により違いはあるが、年間1,000件前後から3,500件を超えるものを確保できた(計26,242件)。20年間は長く、途中でアンケート収集の責任者交代があり、アンケート収集数に凹凸がある。統計学的有意性の検定について、傾向性をMantel-Haenszel test for trendにより、2群間の割合の差をPearsonのカイ2乗により評価した。有意水準は両側検定で5%とした。

成績、結果

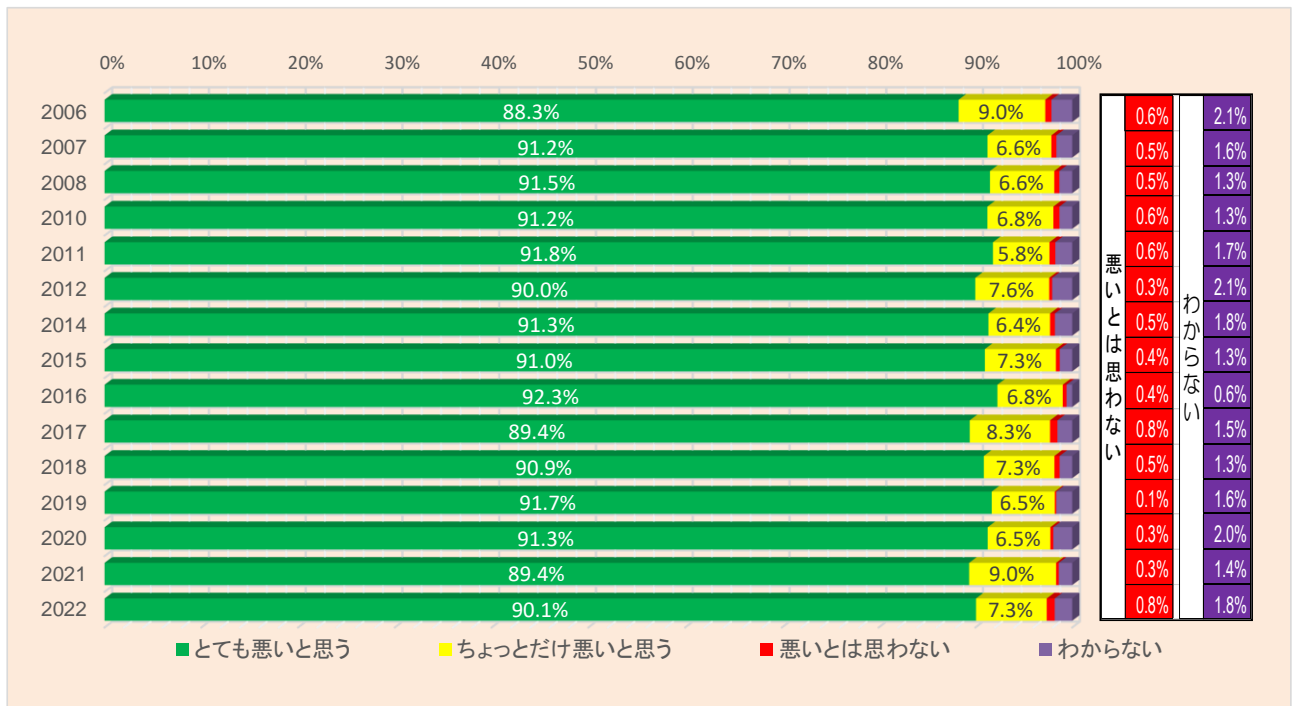
図1

アンケート実施件数 (小学4~6年生)

実施年度	件数	実施年度	件数
2006(H18)年度	2631件	2016(H28)年度	1022件
2007(H19)年度	3535件	2017(H29)年度	918件
2008(H20)年度	2866件	2018(H30)年度	1306件
2010(H22)年度	1438件	2019(R1)年度	1339件
2011(H23)年度	1668件	2020(R2)年度	976件
2012(H24)年度	1979件	2021(R3)年度	1081件
2014(H26)年度	2190件	2022(R4)年度	1331件
2015(H27)年度	2252件		

図 2

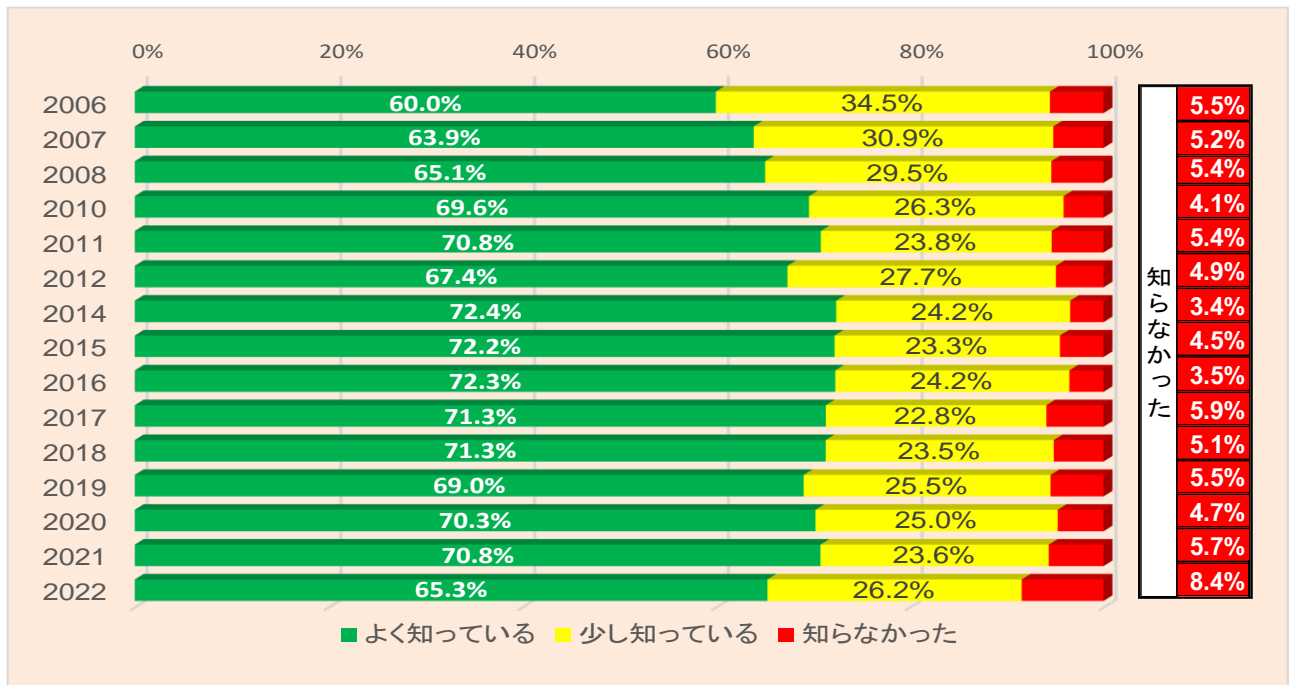
【質問】 タバコは、どれくらい体に悪いと思いますか。



・依存性をよく知っている子どもは90%前後となっている。

図 3

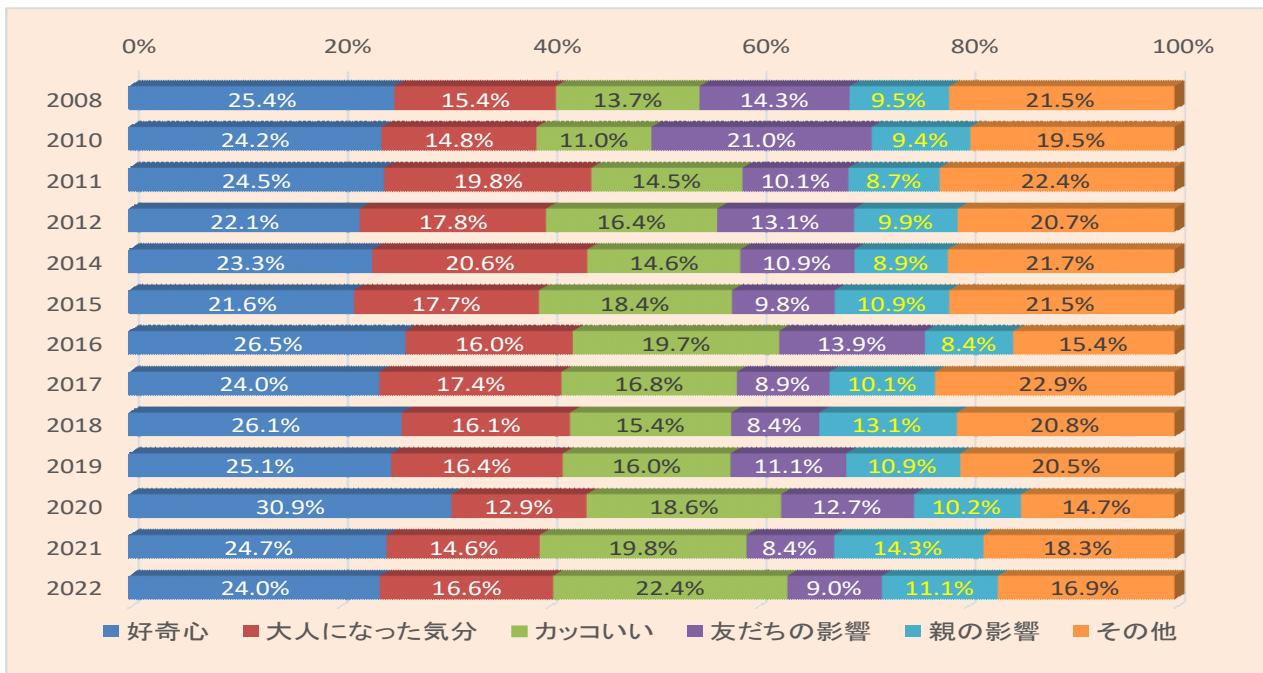
【質問】 タバコを吸い続けると、やめられなくなることを知っていますか。



・依存性をよく知っている子どもは70%くらいであるが、2017年頃からよく知っている子どもが減少傾向である。加熱式タバコの影響を疑っている。

図 4

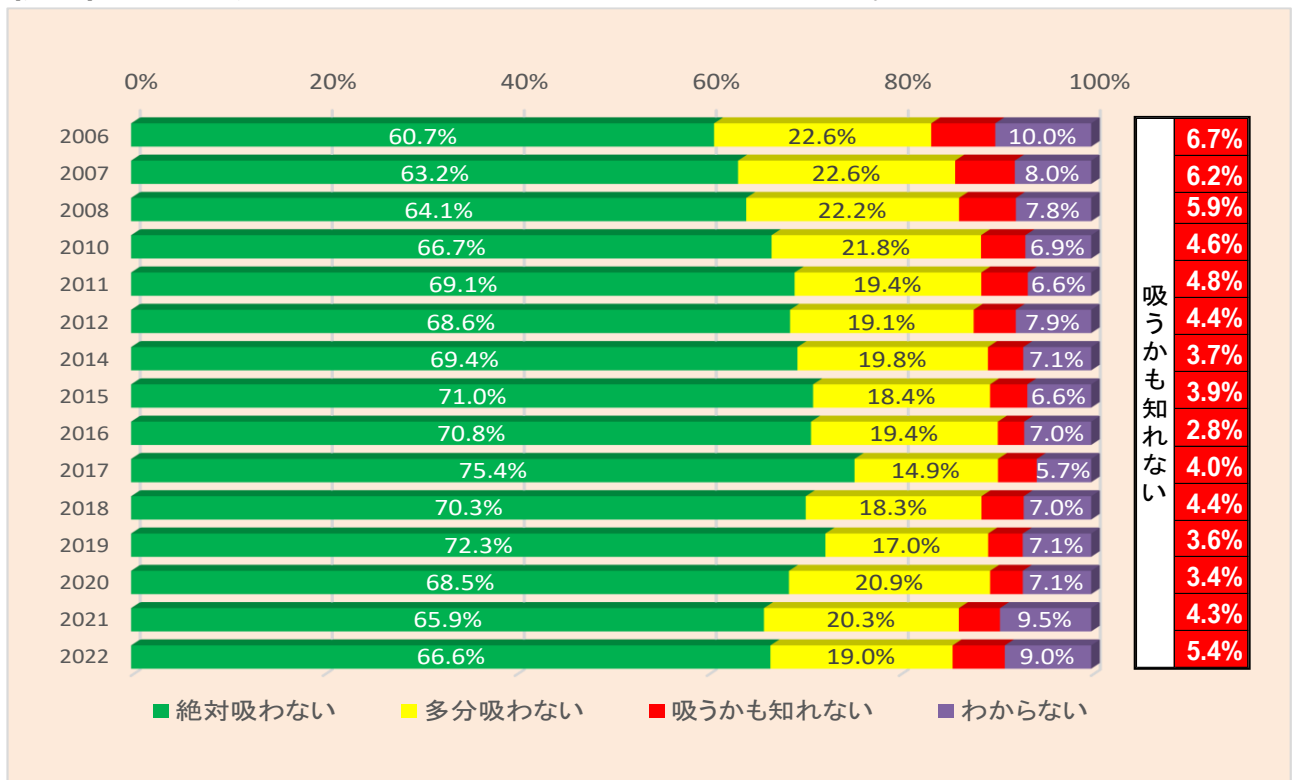
【質問】あなたは、子どもたちがタバコを吸うのは、どうしてだと思いますか



・好奇心や、大人になった気分、カッコいいなど分散し、どれが有意に多いということにはなかった。喫煙経験のない児童に喫煙のきっかけを聞くこと自体が回答困難な設問であったと考える。

図 5

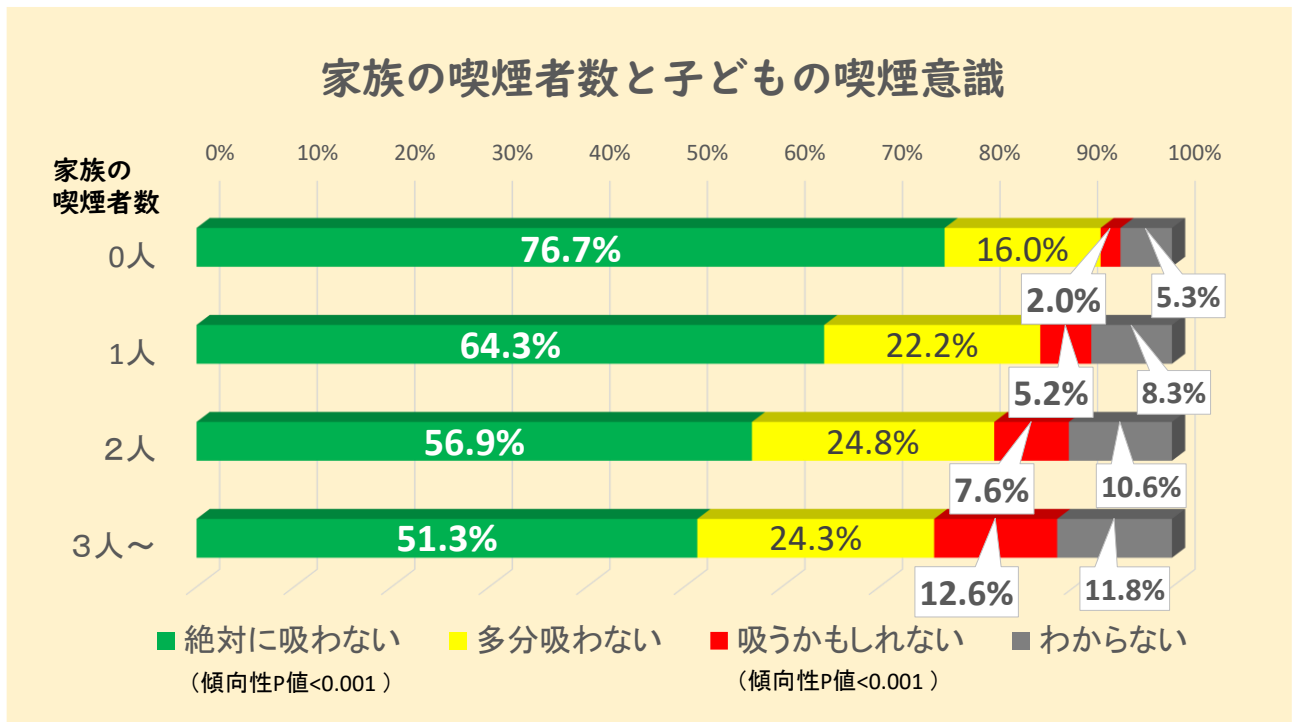
【質問】あなたは、これからもタバコを吸わないと思いますか。



・絶対吸わないという子どもが2017年頃までは年々増加傾向であったが、2018年頃から減少傾向である。加熱式タバコの影響を疑っている。

図 6

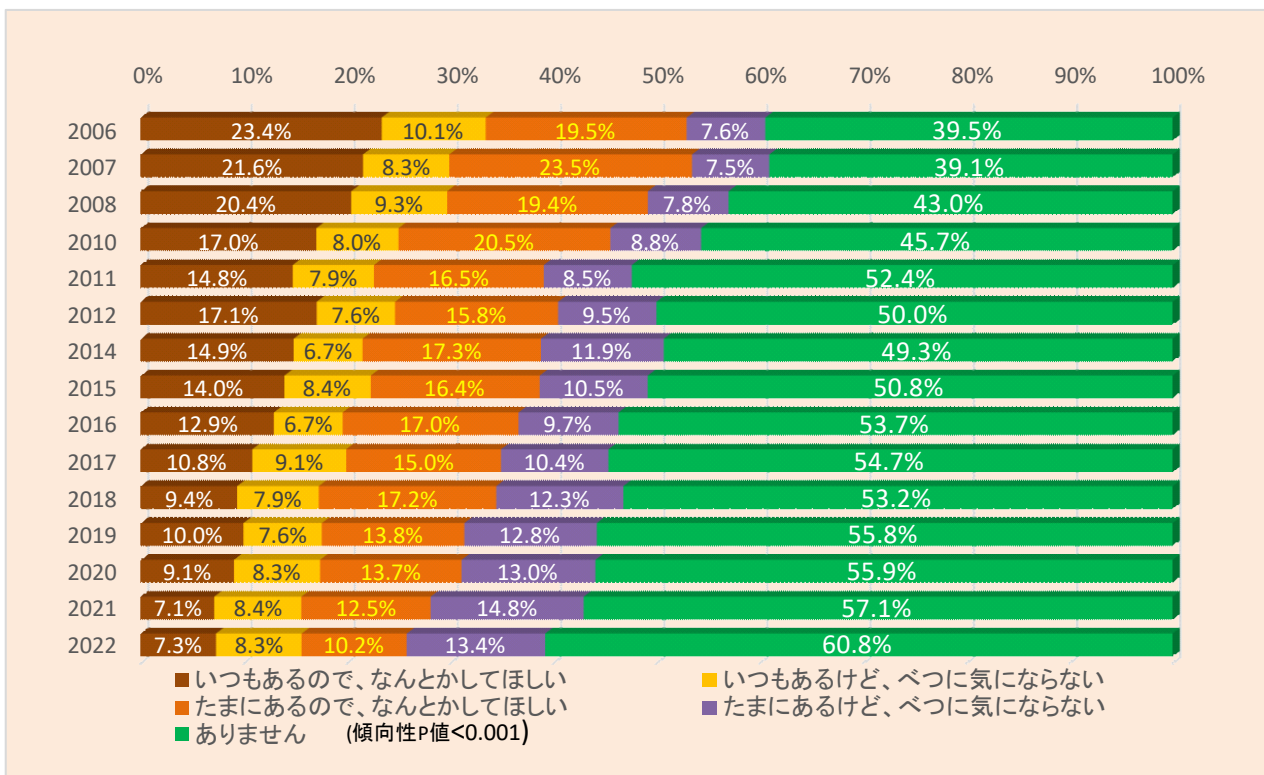
[質問] 家の人で、タバコを吸っている人はいますか。



・家族の喫煙者数が多い程、将来も絶対に喫煙しないと思う子どもが有意に減少し (P<0.001)、将来喫煙するかもしれないと思う子どもが有意に増加する (P<0.001)。家庭・家屋内で家族が喫煙しないよう対策することが重要である。

図 7

[質問] あなたは、家の人々のタバコの煙を吸ってしまうことがありますか。



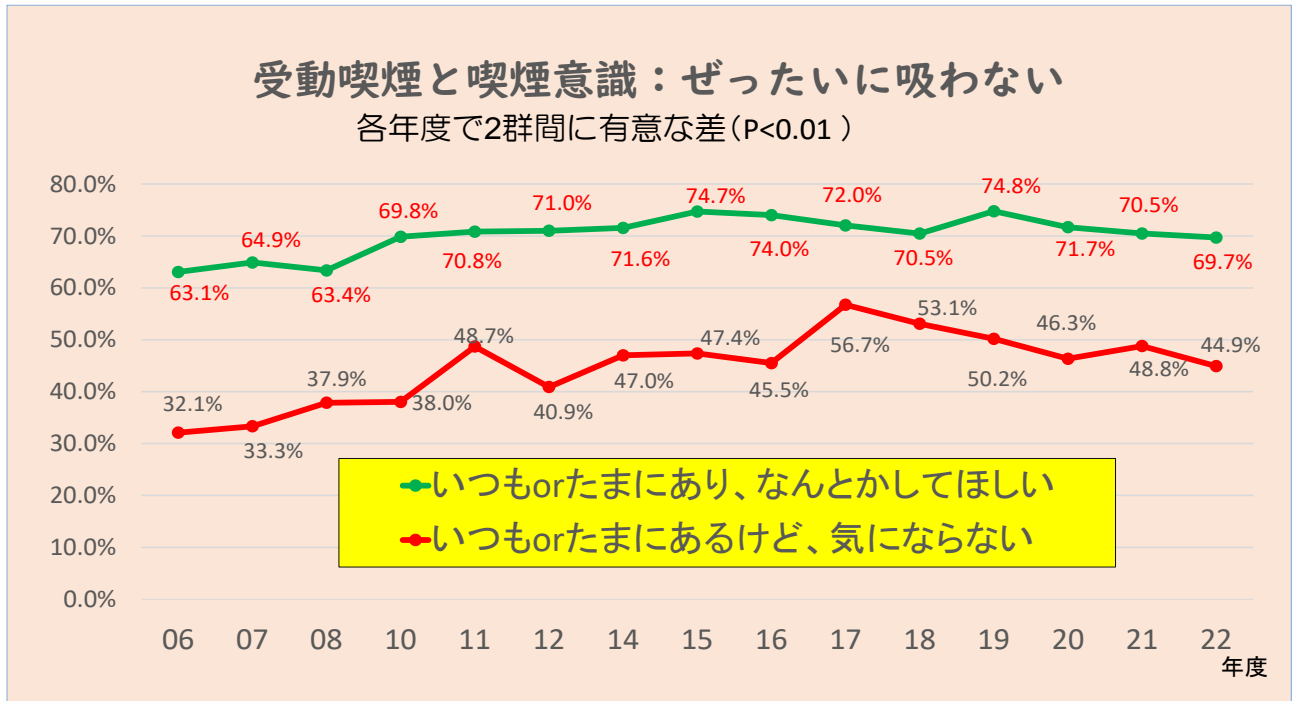
・年々、家庭での子どもの受動喫煙が有意に減少している (P<0.001)

喫煙対策が有効であることが示されていると思われる。

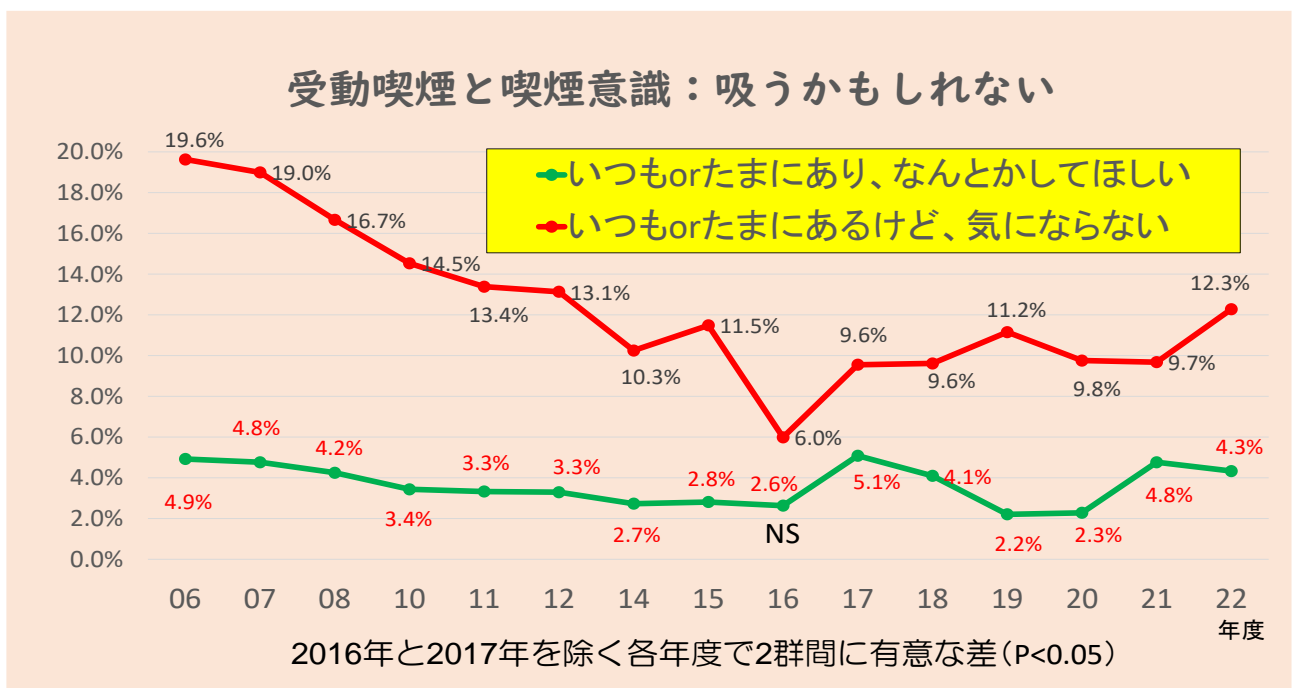
図 8、図 9

[質問] あなたは、これからもタバコを吸わないと思いますか。

・各年度で 2 群間に有意差があった(p<0.01)。



・受動喫煙に悩んでいる子どもは将来絶対喫煙しないと思う割合が有意に高い。受動喫煙があっても、気にならないという子どもは将来喫煙者になる可能性が高い。家庭内での受動喫煙防止が重要である。



・2016年、2017年を除いて、各年度で有意差があった(p<0.05)。

・受動喫煙を受けていても気にならない子どもは将来喫煙するかもしれないと思う傾向がある。家庭内での受動喫煙の機会が多い子どもは、ニコチン依存の傾向があるのでと危

惧している。

考察:

日本の成人喫煙率は、2003年27.7%、2013年20%、2018年17.8%と減少傾向である。高校生の喫煙経験率は1996年男子51.9%、女子33.5%、中学生男子34.6%、女子19.9%と高い喫煙率であったが、その後は減少傾向で、2014年中高生とも12%以下となった(文献1)。病院、飲食店、学校等での禁煙、タスポ設定、タバコ値上げなど喫煙対策が行われ、成人、中高生とも喫煙率は減少傾向である。

和歌山県においても県や各種団体の喫煙防止対策や喫煙防止授業などの活動が積極的に行われている。喫煙率の減少に伴い、今回のアンケート結果でも年々受動喫煙が有意に減少している。今回のアンケート調査の結果、家庭内で喫煙者が多いほど将来喫煙する可能性のある児童が有意に増えることが判明した。千葉市の学童4年生の尿中コチニン値測定(令和3年)の結果では、コチニン値5ng/ml以上の児童が4.2%あり、同居家族の93.8%に喫煙者がいたと報告されている(文献2)。家庭内で受動喫煙の頻度の高い児童(家庭内に3人以上の喫煙者がいる)で、受動喫煙を受けていても気にならない児童はニコチン依存の傾向が疑われる。

家庭内での喫煙者を無くすこと、あるいは減少させることが重要である。継続的に喫煙防止活動を維持することが必要であると考えられる。

加熱式タバコが発売された頃から、将来吸わないと思うや止められなくなると思うものが減少傾向のあることがうかがわれる。タバコ会社の巧妙な宣伝によって、加熱式タバコがタバコの危険性や依存性について学童の認識をあやまたせる危険性がある。これについていくつかの報告がある(文献3、4)。和歌山禁煙教育ボランティアの会では数年来出前授業で、加熱式タバコのスライドを加えている。今後も学校における出前授業で加熱式タバコの有害性について取り上げることが必須と考えている。又、出来るだけ複数回喫煙防止教育を受けることも重要と考えている。

加熱式タバコについては今回のアンケートに含まれていないので、来年度からの事前アンケートに設問を加えることを検討している。さらに5年間程度のアンケート収集によって、加熱式タバコの影響を観察する予定である。

結語(おわりに)：和歌山禁煙教育ボランティアの会で20年間にわたり和歌山市立小学校(和歌山大学附属小学校を含む)53校で実施した喫煙防止教育について、授業前アンケートを実施してきた結果を集計し有意差検定をおこなった。

図3 質問「タバコを吸い続けると、やめられなくなることを知っていますか」

依存性をよく知っている子供は7割前後であるが、2017年ごろから、依存性をよく知っていると思う子供が減少傾向にある。

図5 質問「あなたは、これからもタバコを吸わないと思いますか」

絶対吸わないという子供が2017年ごろまでは年々増加傾向であったが、2018年ごろから減少傾向である。

以上2問に対して、依存性について安易に考えたり、将来絶対吸わないとの回答が減少する傾向があり、加熱式タバコの影響があるのではないかと考えている。

図6 質問「家族の喫煙者数と子供の喫煙意識」

家族の喫煙者数が多いほど「将来も絶対に喫煙しない」と思う子供が有意に減少し、将来喫煙するかもしれないと思う子供が有意に増加した。

図7 質問「あなたは、家の中のタバコの煙を吸ってしまうことがありますか」

家庭内での子供の受動喫煙が有意に減少している。国や県、禁煙防止教育などの喫煙対策が有効である事が示されていると思われる。

図 8、図 9 受動喫煙と喫煙意識

受動喫煙に悩んでいる子供は将来絶対喫煙しないと思う割合が有意に高い。受動喫煙があっても、気にならないという子供は将来喫煙者になる可能性が高い。この関係については、各年度で2群間に有意の差があった。家庭・家屋内で家族が喫煙しないよう対策する事が重要である。

事前アンケートに加熱式タバコの項目を加え、今後の授業では加熱式たばこについて呈示することが重要と考える。

関連企業等との利益相反に関する開示事項はありません。

統計処理に関してご協力をいただいた北村雅保歯科医師(和歌山県職員)にお礼を申し上げます。

事前アンケート収集、入力にご協力を頂いた、和歌山市教育委員会、教職員の方々に深く御礼申し上げます。

文献

1) 「未成年の喫煙・飲酒状況に関する実態調査研究

研究代表者 大井田隆(日本大学・医・公衆衛生)

2012年度(H24)全国調査(4年に1度継続実施中の中高生の喫煙及び飲酒行動調査)

2) 2019年(令和元年)千葉県児童の尿中コチニン値測定モデル事業

3) 医師による小学校での喫煙防止教育成人式における長期有効性の検討

遠藤将光(城北病院、石川禁煙ネット)、高橋裕子ら、禁煙科学16巻、2022-02:1-6

4) 我が国の中学生の電子タバコ、加熱式たばこに関する認知度について

加治正行 日本小児禁煙研究会雑誌 11巻、vol.1:25-29(2021年)2018年、2019年、2020年アンケート調査